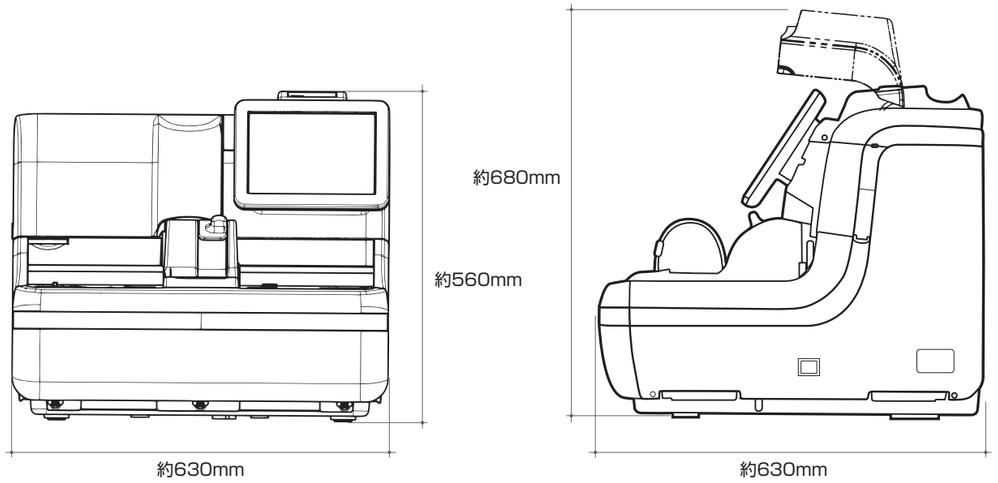
装置寸法



基本仕様

販売名	OCセンサーPLEDIA
測定原理	ラテックス凝集免疫比濁法
処理能力	320検体／時間
検体架設	10本掛専用ラック20本　※200検体架設用ラックトレイ（オプション）
緊急架設	同時最大10検体
検体希釈	希釈倍率15倍、250倍
反応セル	セミディスポ11連プラスチック成型セル（5個架設） 洗剤及び精製水による自動セル洗浄
サンプリング	ノズル方式（液面検出機能、洗剤及び精製水による自動洗浄）
試薬分注	ノズル方式（液面検出機能、精製水による自動洗浄）
攪拌システム	ミキサー回転方式（洗剤及び精製水による自動洗浄）
恒温システム	反応部：エアバスヒートブロック、試薬部：ヒートブロック
光源	LED（波長660nm）
検知器	フォトダイオード
表示入力	カラー液晶（10.5インチ）、タッチパネル日本語対話方式
データメモリー	100,000検体
出力	本体内部サーマルプリンター、RS-232C、USB、LAN接続
バーコード	ラックバーコード・検体バーコード読取り、試薬バーコード読取り、 2次元バーコード（オプション）
寸法	W 約630mm × D 約630mm × H 約560mm
重量	約58Kg
所要電源	AC100V±10V　500VA以下
適合規格・法令	医薬品医療機器等法
製造販売届出番号	13B1X00134000029

ご使用の際は、本装置に添付の「添付文書」および「取扱説明書」を必ずご参照ください。
なお、改良・外観については予告なしに変更することがございますので予めご了承ください。

●栄研化学お客様窓口テクニカルセンター／フリーダイヤル 0120-005-699

販売元 栄研化学株式会社
〒110-8408 東京都台東区台東4丁目19番9号

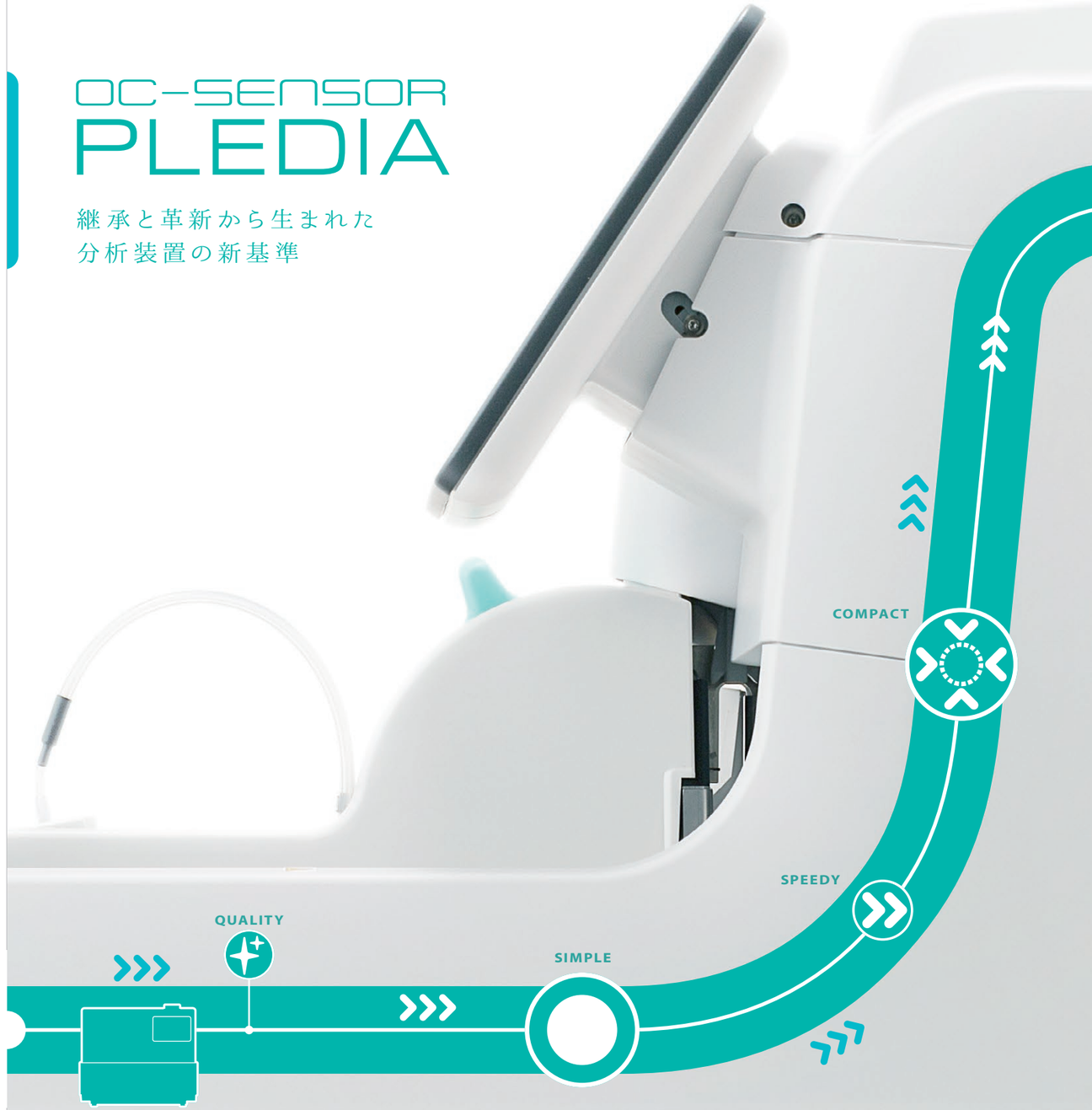
製造販売元 日立アロカメディカル株式会社
〒181-8622　東京都三鷹市牟礼6丁目22番1号

3073 | AIB1
2014年 11月作成

一般医療機器 移動式ディスクリート方式臨床化学自動分析装置
一般医療機器 便潜血測定装置
特定保守管理医療機器 OCセンサーPLEDIA

OC-SENSOR PLEDIA

継承と革新から生まれた
分析装置の新基準



栄研化学株式会社

MORE SIMPLE, MORE QUALITY

品質も、生活も、「もっと」の声に応えたい

「大腸がんで亡くなる方を
少しでも多く減らしたい」

1989年、その思いのもとに便潜血測定装置「OCセンサー」は誕生しました。
以来、人々の健康を守るため、確かな検査・精密な測定を可能にする分析装置として、改良・発展を続けてきました。
今日までOCセンサーシリーズに脈々と受け継がれてきた意思・技術を継承し、コンパクトボディ、デザイン性の豊かさはそのままに、ユーザービリティーと処理能力を向上させた新機種が「OCセンサー PLEDIA」です。

PLEDIA（プレディア）はギリシャ語「より多くの（pleon（プレオン））」と「DIANA（ディアナ）」の造語です。

FEATURES

- 大量検体への適応
- ユーザビリティの強化
- ランダムアクセス機能の搭載
- 自動システムの充実
- グローバルスタンダードを目指して

Random access

Global

Mass

Automatic

Usability

FEATURES & PERFORMANCE

新たな機能と強化した性能

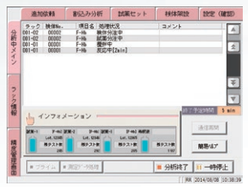
大量検体への適応
処理速度向上・検体架設数増加

作業効率UP
時間当たり320検体の分析を
実現しました。

200検体同時架設
同時最大架設数200検体。
トレー運用も可能です。
※トレーはオプションとなります。

ユーザビリティの強化
画面操作性の向上

タッチパネルで簡単操作
カラータッチパネルを採用。
階層構造を変更し、
操作を簡略化しました。



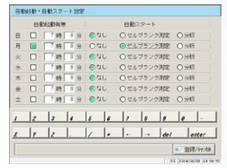
リアルタイム情報
試薬情報、検体処理時間等の
情報をリアルタイムに
確認することができます。

モニタの角度が調節可能
パネルの角度を変えることが
できるため、視認性が向上します。

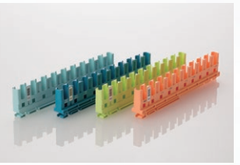
ランダムアクセス機能の搭載

多項目測定オーダー対応
双方向通信により、検体ごとに測定する項目を選択できます。

自動システムの充実



自動機能が満載
自動起動・自動スタート、
自動終了処理機能を搭載しました。



測定モード自動識別
ラックバーコードにより
測定モードを自動識別します。

グローバル スタンダードを目指して

OCセンサーシリーズは国内外で
安心してご使用いただいております。

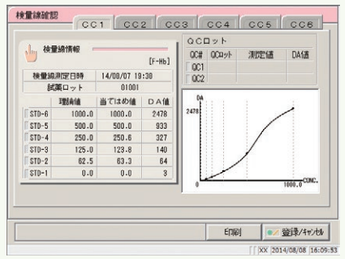
How to USE

操作方法について

Step 1 試薬セット

試薬バーコード読み取り

試薬ボトルのバーコードを読み取らせます。



検量線データ例

検量線は最大6本登録できます。また、検量線ごとに分析条件を設定することが可能です。

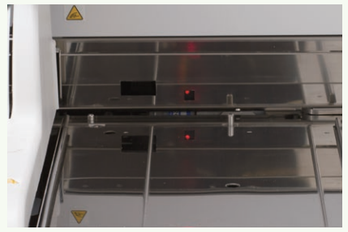
試薬架設

試薬架設数を従来の2本から3本に増やし、大量検体への利便性を高めました。

Step 2 検体架設

検体架設

検体架設部にラックを架設し、分析開始画面にて開始ボタンを押します。



ラック自動認識センサー

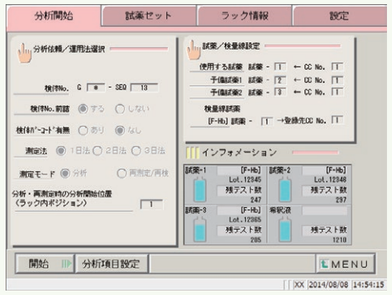
自動認識設定により、ラックを架設するだけで自動的に分析が始まります。

緊急検体架設

緊急検体に対応するため割り込み分析機能を搭載。検体排出部にラックを設置して割込終了ボタンを押します。

Step 3 分析

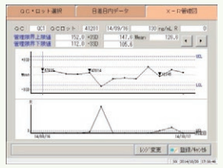
分析開始画面



開始ボタンを押すと分析が始まります。

分析中画面

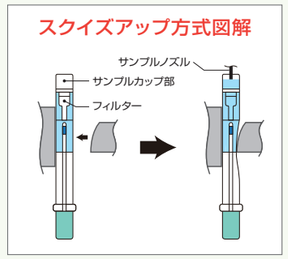
分析状況を画面で確認できます。



X－R管理図グラフ

分析中に精度管理画面の参照が可能です。

スクイズアップ方式



容器をスクイズすると、フィルターで濾過された検体がサンプルカップ部にたまり、それをサンプルノズルで分注します。

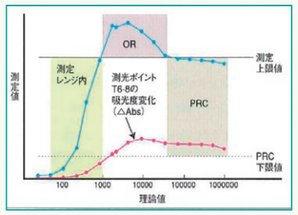
Step 4 分析終了

分析終了後

再検ラック

希釈再検ラック

再検ラックを用いて、再測定が可能です。希釈再検ラックは15倍、250倍希釈を自動で行い測定します。



測定上限値以下の検体で、測光ポイントT6-8のΔabsがPRC下限値以上を示していれば、その検体はプロゾーン(PRC域)であると判定します。

高濃度検体はPRC法(Primary Rate Check法)によりプロゾーンを確認します。

外部出力

サーマルプリンター

USB,LAN,RS232C

分析データは様々な媒体で出力･保存が可能です。